

検討会におけるこれまでの議論

1. DX 推進の現状と課題認識

- ・ 航空便のキャンセルや遅延発生時における迅速なお客様対応が課題
- ・ 空港会社が航空会社から情報をもらう効率的な仕組みがなく、空港への到着便に関する情報把握が難しい
- ・ ターミナルビル内の旅客フローの把握も空港会社にとっては重要
- ・ グランドハンドリングでは人手不足や受け入れ可能時間のミスマッチによる機会損失が発生
- ・ 鉄道、バス、タクシーなど二次交通との情報連携が不十分であり、電話、各社HPから関連情報を個別に入手している
- ・ 個別に入手していた情報の一括入手による効率化が期待
- ・ プラットフォームのような共通ベースから空港毎にシステム構築をすることはコスト面にも良い
- ・ 外国航空機の運航情報の把握による効率的な作業が可能
- ・ 過去データを地域の拠点としてのターミナルビル戦略にも活用したい
- ・ 提供されるデータ活用により、災害対応能力の向上が見込まれる
- ・ ダイバート便の振り分け結果が関係空港に共有されることが期待される

2. データ提供の枠組み

1) 提供データの取り扱い

- ・ 提供可能なデータの内容、取り扱いについて整理が必要
- ・ 遅延に関する情報のニーズが高いと感じており、これら関連情報を出していくと良いのではないか。
- ・ データはどのような方法で提供されるか
- ・ API の活用など、インターフェースのハードルを下げた技術展開を期待
- ・ データを遅滞なく提供できるか

2) ガバナンス

- ・ データの利用者に応じたデータの提供範囲の整理が必要（協調領域・競争領域を考慮）。
- ・ 個人情報の取り扱いを含むデータ利用のルールの整理が必要
- ・ 二次利用の考え方の整理
- ・ SWIM からの配信データだけでなく、SWIM に格納できる仕組み（データ領域）を設けることで関係者間でのデータ利活用に期待

3) システム設計

- ・参考データを提供頂き、良いシステムを構築する為にプロトタイプを使って検証したい
- ・軽いシステム環境を用いてトライアルをやってみてはどうか。
- ・一元化されたプラットフォーム構築によるシステム開発や準備の効率化、各社負担のコスト低減の期待。
- ・ステークホルダー間でコミュニケーションをとるアプリケーションなどが有益だと感じた。一般に使われている SNS のような仕組みがあっても有用ではないか。
- ・他空港での状況を把握したり、解決したりするためには、統合データベースのようなものがあると、パブリックな情報を共有する仕組みが必要である。

4) その他

- ・民間のデータを航空局に受け渡し、相互利用できる枠組みがあればさらに価値が高まるのではないか。
- ・最低限の情報共有の方法について、前倒しで進められることができると、いち国民としてもありがたい。

3. ケース毎の活用

1) 平常時

①航空機運航

- ・フライトフェーズにより、随時変更される運航情報の有用性
- ・グランドハンドリングに関する人手不足の解消、配置計画の見直しに期待
- ・設備・車両等の利用状況の把握や効率化
- ・グランドハンドリング機材の共通使用とその効果に期待
- ・複数の航空会社に対するサービスを提供する上で、社員の配置計画に有用であり、すべての離着陸便の情報配信（Push 型）を希望
- ・リアルタイムな情報取得により、スポットまでの移動経路を予め確認でき、安全面でも寄与
- ・配信された運航データを社内システムへ自動登録することによる、作業効率化
- ・空港関係の申請手続きのデジタル化による負担軽減（FAX等の廃止）
- ・地上走行時間の実績値から Hold Over Time や便以降の遅延の参考情報として有用
- ・混雑空港の発着調整枠の空き状況、取得状況をリアルタイムに確認できることを希望

②空港運用

- ・ 空港会社がエアラインから運航情報をもたらす効率的な仕組み作りが必要
- ・ 到着便の旅客情報の把握を希望
- ・ 空港共通プラットフォームの構築による作業効率化
- ・ エアサイドとランドサイドの相互情報による空港全体の効率性、利便性向上
- ・ 他空港の運用状況の把握を希望
- ・ 離陸重量通報の共有を受けることで着陸料計算の作業効率化
- ・ スポット管理システムへ航空局データを自動で取り込み、使用計画・運用計画の作成
- ・ 他社との共用スポットをリアルタイムに共有しあうことで、双方の利便性の向上、スポット運用の効率化に期待
- ・ 自社システムでのデータ欠損時の確認や補完としての活用に期待。(停留料計算)
- ・ 地方空港、離島空港において、デジタル化が進むことは大変有益である。人手も不足し、資源も限られているため、今後のシステム設計においては、既存のアプリの流用など、簡単に利用できるような発想を期待している。

③二次交通

- ・ 二次交通（鉄道・バス・タクシー等）との情報連携
- ・ 二次交通情報が案内可能なランドサイド用の共通プラットフォーム構築が有効
- ・ 地域の公共交通と情報連携することによるランドサイドの運用効率化

④ターミナルビルの旅客フロー

- ・ 発着便の予約数と搭乗者数の情報収集により混雑対策の判断目安への活用に期待
- ・ 空港到着ロビーの旅客情報収集による旅客滞留低減
- ・ ターミナルビル、旅客フローの混雑予測から空港案内や旅客誘導の人的リソース効率化
- ・ 二次交通の利用情報等を用いたターミナルビル等の旅客フローの予測と効率化
- ・ 旅客カウンターの集中、到着旅客や入国時の館内混雑の回避に期待

2)イレギュラー時

- ・ 二次交通の運行が乱れた際のエアラインによる迅速なお客様対応
- ・ 二次交通や宿泊に関するリアルタイムな情報収集と共有を希望
- ・ エアラインにおける自社の運航が乱れた際の他社便への振り替え対応、リアルタイムでの空席情報の共有
- ・ イレギュラー時など、他社を含めた上空待機のリアルタイム状況を正確に把握

し、今後の運航に活用

- ・更新される情報がリアルタイムにお客様や社内共有することが可能
- ・突発的な滑走路閉鎖などの情報や映像の配信
- ・空港の天気情報の実況を視覚的に確認することの有益性